



令和3年7月21日

担当課	総務企画課
担当者	山田原 尚生
電話	(073) 488-5102
内線	7522

## 野外活動の際は、ダニに注意！！ ダニ媒介感染症の発生が増加しています

### [現状]

例年、春から秋にかけて、ダニ媒介感染症（SFTS・日本紅斑熱等）の発生があります。和歌山市では、今年に入り、すでに重症熱性血小板減少症候群（SFTS）3件、日本紅斑熱8件の届出があり、過去5年の中で、最も多く発生しています。

	R3年 (6月末まで)	R2年	R1年	H30年	H29年
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	3	1	0	2	1
日本紅斑熱	8	5	8	4	7

### [対策]

○ダニ媒介感染症は、病原体を保有するマダニに咬まれることで感染するといわれています。春から秋にかけて山や草むらで活動する機会が多くなりますが、マダニに咬まれないよう注意しましょう。

○気温も高くなり、これから12月頃まで、マダニの活動時期です。

○マダニは木の葉や草むらの土の表面に生息しています。

○できるだけ草むらに入らない。

○野山に行く時は長そで、長ズボンなどできるだけ肌を露出しない。

○草の上に直接座ったり、寝転んだりしない。敷物を利用する。

○脱いだ上着やタオルは、不要意に地面や草の上に置かない。

○虫よけスプレーを活用する。

○帰宅後、すぐに入浴し、着替える。

(フタトゲチマダニ)



出典：国立感染症研究所ホームページ

**参考** マダニの成虫は体長が3～8mmで、吸血して飽血（満腹状態）になると、10～20mm程度の大きさになります。

#### 【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）】

マダニに刺されてから6日～2週間程度で、原因不明の発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が中心です。時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）など様々な症状を引き起こし、重症化や死亡する場合があります。

#### 【日本紅斑熱】

マダニに刺されてから2～8日後に、高熱、発疹、刺し口（ダニに刺された部分は赤く腫れ、中心部がかさぶたになる）が特徴的な症状です。紅斑は高熱とともに四肢や体幹部に拡がっていきます。紅斑は痒くなったり、痛くなったりすることはありませんが、治療が遅れれば重症化や死亡する場合があります。

# 「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病**などに感染することがあります。

## ダニに咬まれないためのポイント！

### ●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

### ●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

### ●足を完全に覆う靴を履く

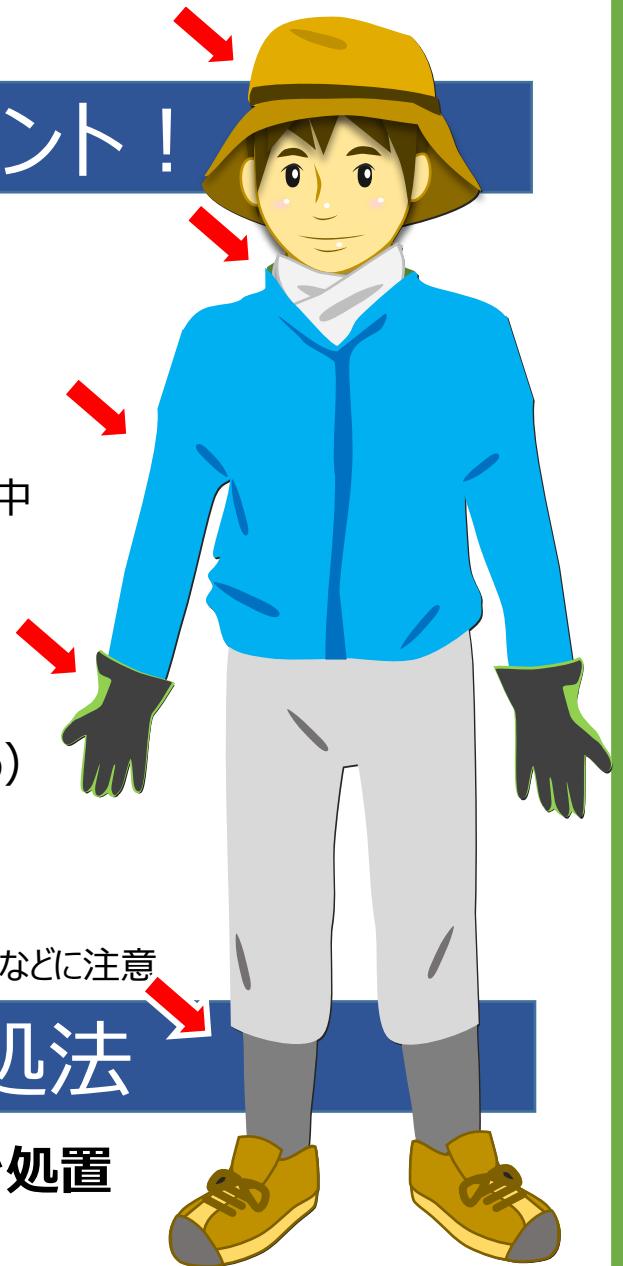
⇒サンダル等は避ける

### ●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

\* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

\* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



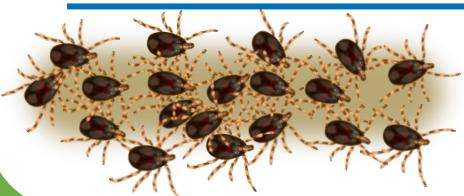
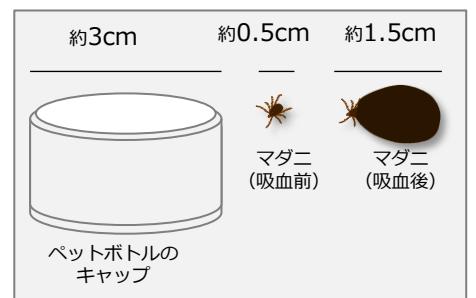
## ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



## ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

